

# 2020年度 社会福祉法人多摩福祉会事業計画

法人理念に基づく法人中期計画を展開するために中期計画初年度事業を着実に展開する。

## 1. 中期計画・50周年事業・災害対応

- ・法人中期計画の初年度事業を実施する。
- ・50周年記念事業の50年誌の発行準備を進め、引き続き法人資料を収集する。
- ・50周年記念事業として、保育所、学童保育、本部合築の施設建設のプランを策定する。
- ・50周年記念施設建設のための募金活動プランを策定する。
- ・大災害に対応できる拠点毎の危機管理、法人事業継続のあり方について検討を開始する。
- ・仮『浦辺史小伝』を発行する。

## 2. 役員体制・経営

- ・評議員、理事会の民主的な議論に基づいて法人の意思決定、重要人事を行う。
- ・各拠点代表により構成される経営会議で、理事会提案事項の検討、情勢分析、各拠点の情報共有を進め、法人業務を円滑に進める。
- ・法人本部事務局会議において経営会議に諮る事項の整理を行う。
- ・50周年事業を展開しうる財政計画を立てる。

## 3. 対外任務

- ・社会福祉法人全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京保育経営研究懇話会、東京保育問題協議会、日本学童保育学会など、諸組織における任務を積極的に果たす。
- ・福島合研集会の運営を支援する。

## 4. 人事管理・研修

- ・適切な拠点間人事異動を行う。
- ・各拠点、法人の中堅幹部育成を積極的に図る。
- ・リクルートを充実させ職員採用を円滑に進める。
- ・全拠点の労働時間統一を図る。
- ・情勢を的確に把握し今後の職員処遇改善のあり方を検討する。
- ・職員人事データの蓄積整備を図る。
- ・法人合研、中堅、主任、新人、給食、保健など系統的な研修の強化を図る。
- ・他法人との交流研修を進める。

## 5. 広報・ICT化

- ・法人ニュース紙面の充実を図り法人事業の広報を強化する。
- ・ホームページの充実を図る。
- ・各拠点のICT化プランを策定する。

# こぐま保育園 2020年度 事業計画

## 1、事業内容

(1) 認可定員 211名

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
運用定員	21	35	38	39	39	39	211

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7：00～19：00

(4) 延長保育事業 18:00～19:00

(5) 1～5歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域活動事業(体験保育、産前産後育児体験、小中高生の育児体験、実習生受け入れ)

(9) 多摩市特別保育事業

一時・定期利用保育事業

①利用定員 定期利用登録 4名 一時保育 2名

②保育職員体制 常勤 1名、非常勤職員 2名

(10) 自主地域活動事業(あそぼうかい…週2回、育児講座、世代間交流)

## 2、児童状況

(1) 年齢別児童状況(4月1日現在)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
運用定員	21	35	38	39	39	39	211
在籍児童 (4月)	21	35	38	39	39	39	211
新入児童	21	14	6	5	2	0	48
市内	21	35	37	39	39	38	2
管外	0	0	1	0	0	1	2

\*管外の地域-2歳児、5歳児共に稲城市

(2) 新入園児状況

- ① 入園経過
- |    |           |    |           |     |        |    |
|----|-----------|----|-----------|-----|--------|----|
| 0歳 | 遊ぼう会より    | 4名 | 育休復帰      | 21名 |        |    |
| 1歳 | 遊ぼう会より    | 1名 |           |     |        |    |
| 2歳 | 他園より      | 1名 | 認証より      | 2名  | 他園定期利用 | 1名 |
| 3歳 | 認証より      | 1名 | ちいくまより    | 1名  |        |    |
|    | 家庭的保育事業より | 1名 | 事業所内保育所より | 1名  |        |    |
| 4歳 | 他園より      | 1名 | 認証より      | 1名  |        |    |
- ② きょうだい関係
- |     |    |     |     |     |    |
|-----|----|-----|-----|-----|----|
| ・0歳 | 7名 | ・1歳 | 11名 | ・2歳 | 3名 |
| ・3歳 | 1名 |     |     |     |    |
- (きょうだい同時入園 0歳児・2歳児、1歳児・3歳児)
- ③ 育児困難・配慮家庭 3家庭
- ④ 障碍児
- ⑤ 発達観察要配慮児童 名
- ⑥ アレルギー対応児 1歳 2名

3、職員状況

- (1) 常勤職員(在籍) 47名
- |    |      |     |       |    |
|----|------|-----|-------|----|
| 内訳 | 常勤職員 | 46名 | 再雇用職員 | 1名 |
|----|------|-----|-------|----|

① 常勤職員配置状況

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早専任	合計
1	1	2	35	1	1	4	1	1	47
			主任 1			主任 1			

- ② 新規採用者 4名
- ③ 産休・育休取得者 1名
- ④ 育休復帰者 3名
- ⑤ 他施設より 異動職員 1名 他施設へ異動職員 1名

(2) 有期契約職員

① 有期契約職員配置状況

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちいくま	環境衛生	事務室	合計
人員	5	4	4	4	6	4	5	2	2	1	37

有期契約職員新規採用者

新規採用予定者 7名

- (3) 嘱託医 3名
- ① 小児科医 1名 (高瀬 真人 日本医科大学永山病院小児科医局長)
  - ② 産業医 1名 (八巻 こずえ 桜ヶ丘記念病院)
  - ③ 歯科医 1名 (三上 直一郎 三上歯科医院 医師)
- (4) 講師
- ① わらべうた 勝俣希子

#### 4、協力関係機関

- (1) 島田療育センター巡回指導 年間2～3回
- (2) 発達支援室巡回
- (3) 市・健康センターよりの保健指導、子育て総合センターへの相談と連携
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力
- (5) 産業医との連携、市内の精神・神経科医

#### 5、重点課題

- (1) 職員一人一人が主体性を発揮できる運営を発展させます。
- ① 職員が自分の可能性を見出し、生き活きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえる職場にしていきます。
  - ② 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。  
2017年度より3ヵ年計画で検討してきた結果をふまえ、法人各事業所との労働時間の統一化を図るとともに、育児のための時間短縮者、それを支える現場ともに働きやすい条件を整備をしていきます。  
また、結婚、出産と重なる時期をむかえる職員層が増え、産休・育休取得希望者が多くなっています。保育士確保が難しいなか人材を少し潤沢に採用し、安定した運営を目指します。
  - ③ 長くこぐま保育園に勤務した園長が退職し交替となります。また新入職員4名を迎え、職員集団作りを重点に置きつつ、保育内容、子ども状況、父母状況、職員状況等の情報の共有を行い、職員みんなで考えあっているよう努力します。  
主任層も今後交替しながら運営していくことが必要となっています。複数の中堅層が主任を経験することで安定的な園運営を目指します。
- (2) 子どもの主体性、自主性が発揮できる保育を発展させます。

- ① 保育をめぐる情勢の変化で、見通しを持った運営が厳しい状況ですが、こういう時だからこそ、子ども像を明確にして“こんな保育がしたい”“厳しいけれどピンチをチャンスに” という前向きな姿勢で、情勢を分析して保育に向かいあえるよう深めあいをしていきます。
  - ② こぐま保育園は何故異年齢保育に移行したのか1900年代の子どもや父母・職員の姿、社会状況等の学び、それを通して今の保育を深めることにつながっていくようにできれば良いと考えます。異年齢保育の実践の歴史や現在の状況把握を共有し合い、課題を明確にした深めあいをしていきます。同時に背伸びをせず今の自分たちにできる保育をしていくなかで、保育士からの発信や創意・工夫が生まれ、自分たちでつくる異年齢保育を大事にしていきます。
- (3) 父母と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。
- ① 子どもたちのどんな力を培っていききたいのか、懇談会に学習も加えながら、共に深めていきます。
  - ② こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しながら異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力をわかりやすく伝えていきます。職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。
- (4) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。
- ① 自主子育てひろば事業、一時保育事業、永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちが生活しやすい地域にすることをめざします。高齢者の参加、小学校から高校生までの居場所づくりも視野にいたした連携も目指します。
  - ② 一時保育・定期利用保育事業を発展させます。  
“ちいくま”もすっかり園に定着し、在園児との交流保育も行ってきました。異年齢のおうちに遊びに行く実践を積み重ねて来ましたが、さらに充実・発展させます。
  - ③ 学童3施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。

## 6、職員研修計画

### (1) 園内研修

- ① 全員研修（荒馬、ドル平、他）
- ② 講師よる研修（わらべうた、美術、他）
- ③ 新人研修（保健関係、乳児保育研修、離乳食研修、他）
- ④ 研究会（体育、わらべうた、美術）
- ⑤ その他必要に応じて計画

(2) 出張研修

- ① 全国・東京経営懇研修会・セミナー
- ② 東京都、多摩市、支援関係機関など行政主催研修
- ③ 東社協・日保協主催研修会
- ④ 保育協議会 保育士会・ハンデイキャップ・栄養士会・看護師会
- ⑤ キャリアアップ研修
- ⑥ 他

(3) 法人研修

法人合研、中堅層研修、保健部会、給食部会、新人研修、その他。

(4) 自主研修

職員一人一人に支給される研修費補助を生かし、個人目標にそって研修計画を立てておこないます。

## 7、修繕計画

長期修繕計画見直しを行います。

掲示板改修工事、P A S 交換工事及びケーブル交換工事、その他を行います。

# 練馬区立向山保育園 2020年度事業計画

## 1、事業内容

(1) 認可定員 120名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124
新入児童	9	10	3	2	1	0	25

(2) 保育年齢 8ヶ月～就学前

(3) 開園時間 7時00分～20時30分

(4) 延長保育 7時00分～7時30分、18時30分～20時30分

(5) 年齢別保育

(6) 障害児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域活動事業（職業体験、ボランティア、実習生受け入れ）

## 2、児童状況

年齢	新入园児	アレルギー	障害児	外国人家庭	育児困難家庭
0歳児	9名				2名
1歳児	11名				1名
2歳児	3名	3名		2名(中国、ネパール)	1名
3歳児	2名	1名		2名(フィリピン、中国)	
4歳児	1名		2名	1名(フィリピン)	3名
5歳児		1名	1名		1名

## 3. 職員状況

(1) 常勤職員

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1名	3名	1名	1名	25名	3名	2名	1名	37名

※主任2名（給食・環境衛生）

(2) 常勤職員状況

\*新規採用者 保育士1名、調理師1名

\*育休復帰者 保育士2名

\*産育休者 保育士3名

(3) 法人内異動者 調理師1名

#### (4) 有期雇用職員

職種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境衛生	土休日	合計
人数	2名	4名	3名	2名	2名	2名	2名	2名	1名	20名

#### (5) 嘱託職員

##### ① 嘱託医

戸田クリニック 戸田喜文先生 (内科・小児科医)

安藤歯科医院 安藤浩徳先生 (歯科医)

##### ② 田中医院 田中美緒先生 (内科・神経内科医)

##### ③ 講師 鈴木典子先生、北相模美恵子先生

### 4. 特別保育事業

#### (1) 休日保育

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	0	4	4	6	10	6	30
在園児	0	0	0	1	0	1	2
アレルギー児	0	0	0	0	2(卵)	0	2

### 5. 研修計画

#### (1) 園内研修

- ・わらべうた研修
- ・救命救急講習
- ・事例検討研修 (総括会議にて)
- ・栄養の話 (給食主催)
- ・健康について (保育園主催)
- ・ドル平講習

#### (2) 法人内研修

- ・法人合研
- ・新人研修
- ・中堅層研修
- ・保健部会
- ・給食部会

#### (3) 出張研修

- ・練馬区の研修 (障がい児、乳児、用務研修)
- ・経営懇 (障がい児、乳児)、保育団体連絡会の研修
- ・コダーイ研究所(体育)
- ・自主研修 (職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人計画を作成し目標をもって 参加していきます。)

### 6. 2020年度重点課題

#### (1) 運営機構の変更をしていきます。

園長交代に伴い、副園長3名、事務長1名を置き運営体制の強化を図ります。

「運営と保育内容」の両輪で園運営が円滑に組織されるよう、運営会議、副園長・主任会議、運営・責任者会議、保育内容会議、クラス会議、職域会議、有期職員会議を設置します。その際、事前打ち合わせ会を行い職員の意見や思いが反映できる



ように進めていきます。

(2) 職員一人一人が主体的に園運営にかかわるようにしていきます。

- ・ 新入職員2名、新しいリーダー2名を加え、各クラスの運営が安定してけるように事務所職員やフリー保育士3名と共に保育を行っていきます。また、職員一人ひとりが園運営の役割を担い、力を発揮していけるようにします。(保育内容担当、園行事担当、係分担等)
- ・ リーダー経験を積み重ねた職員を対象に、保育園運営を視野に入れた次期副園長等の幹部の育成に取り組んでいきます。
- ・ 中堅職員が中心となって職員みんなで保育内容を深め、学び合いながら保育を作っていきます。
- ・ 育児休業を取得した職員の復帰は園全体で協力しあいながらお互いの力を発揮し、育児をしながら仕事をする職員からの学びを保育に活かしていきます。フリー保育士はクラス担任と同等の役割を担いながら保育に関わります。また、園全体の役割も担っていきます。
- ・ 給食職員は日常的に保育現場と連携を取りあい、子ども理解を深めていきます。
- ・ 職員面談を通して課題を整理し共有しながら成長し合っていけるようにしていきます。
- ・ 民営化に向けて事業内容、財政状況を確認しながら、職員定数(常勤・有期)を検討していきます。

(3) 子どもたちが生き生きと育ちあう保育を行います。

- ・ 2019年度幼児異年齢保育実践を踏まえ、職員みんなで保育実践の語り合いの中で異年齢保育の意義を確認、共有していきます。異年齢保育実施に向けて、幼児異年齢の関わり合いを日常的に実践を積み重ねます。また、朝夕の合同保育、土日祝保育の中でみられる異年齢の関わり合い、子どもの育ちを職員みんなで意識的に考えあいます。
- ・ 専任保育士の配置(早番、土休日)を行い専任保育士との連携をもとに、継続した保育の中で子どもたちの発達を見ていきます。
- ・ 職域とクラスが連携し、給食、環境衛生分野の保育を進めていきます。
- ・ クラスと給食  
給食として統一のテーマ(朝食)に基づいてクラスの子ども、保護者状況を把握し、保育と保健と給食で支援内容を検討していく。
- ・ クラスと環境衛生  
遊具の探求、子どもの視点に立った環境づくり

(4) 職員研修を充実していきます。

- ・ わらべうた、体育の領域的な実践および研修を重点的に進めていきます。  
講師研修(わらべうた、北相模さん巡回等)を総括会議の中で職員研修として位置づけ、理解を深めていきます。また、自主研修や出張研修で学んできたことを全体で共有できるように回覧や報告する場を作っていきます。

(5) 地域に根差す保育園を目指します。

① おひさま広場(月 1~2 回)

- ・わらべうた、伝統行事、離乳食交流会を中心に内容を構成していきます。
- ・職域の専門性を地域に還元していきます。
- ・同年齢、異年齢交流を大切にします。
- ・園行事の見学、参加
- ・参加保護者の交流や新たな出会いの場となるような支援をしてきます。

② ふれあい給食

- ・食生活支援につながるような機会にしていきます。
- ・栄養士も参加できるように工夫していきます。

③ 離乳食交流会

・栄養士による離乳食講座や交流を通して、地域の離乳食実態を把握し援助していきます。

④ 身体計測

- ・看護師による身体計測を行い、健康相談等にも応じていきます。

⑤ 入園希望者の見学受け入れ

- ・地域家庭の子育て環境を把握し、必要な支援を行う。

# 砧保育園 2020年度事業計画

## 1. 児童状況

- (1) 認可定員 76名
- (2) 利用定員 85名
- (3) 保育年齢 産休明け～就学前
- (4) 保育時間 7：15～22：15
- (5) 年齢別定員状況（4月1日現在）

年齢	0才	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	16	17	18	85
新入児童	6	7	2	1	0	0	16

（2020年2月28日現在 4歳児 2名空き）

- (6) 新入園児状況 16名 16世帯 （2020年2月28日現在）
  - ①認定 全員 標準時間認定
  - ②入園経過 産・育児休業 12名、認可保育所 1名、認証保育所 2名、
  - ③きょうだい関係 0歳児 2名、1歳児 3名、
    - 3歳児と 1歳児のきょうだい 1組
    - 4歳児と 1歳児のきょうだい 1組
    - 5歳児と 0歳児のきょうだい 1組
    - 5歳児と 1歳児のきょうだい 1組
    - 5歳児と 2歳児と 0歳児のきょうだい 1組
  - ④延長対象児 1時間延長 2名  
2時間延長 1名
  - ⑤困難・配慮家庭 0家庭
  - ⑥障害児 0名
  - ⑦アレルギー食対応児 5名（1歳児 2名、2歳児 1名）
  - ⑧健康面配慮児 1名

### (7) 在園児状況

- ①世帯数 50世帯（新入園家庭とのきょうだい関係を除く）
- ②保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③きょうだい関係 15組（新入園家庭とのきょうだい関係を除く）
- ④アレルギー配慮児 7名
- ⑤発達要観察配慮児 1名

- ⑥配慮家庭・関係機関対応 1家庭  
 ⑦延長対象児 1時間延長 22人(月10回以上登録 10名)  
 2時間延長 5人(月10回以上登録 1名)

(8) 休日保育状況

①利用定員

1日10名程度

②利用時間 7:15~18:15

③保育体制

常勤3名(保育士2名、調理1名) 有期雇用職員2名

## 2. 職員状況

(1) 常勤職員

職種	園長	副園長	事務長	主任	看護師	保育士	栄養士・調理師	合計
人員	1名	1名	1名	5名	1名	20名	5名	34名

(2) 常勤職員状況

- ① 新規採用者 5名  
 保育士 4名、栄養士・調理師 1名  
 ② 法人内異動者  
 向山保育園より 調理師 1名  
 ③ 産休・育休者 1名  
 ④ 育児のための時間短縮勤務 1名  
 ⑤ 育児時間取得 1名  
 ⑥ その他時間短縮勤務 2名(予定)

(3) 有期契約職員

- ① 新規採用者 0名  
 ② 保育士 9名 (うち休日保育と兼任5名)  
 (週3日…2名 週4日…1名 週5日…1名 不定期…5名)  
 ③ 保育補助 1名 週3回就労  
 ④ 調理補助 1名 週3~4日就労

(4) 嘱託医、講師

- ① 嘱託医 橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医  
 ② 講師 ウラベイク(造形)、西山 裕子(わらべうた)  
 pilchard astrid(異文化交流)、永田 裕美子(言語聴覚士)

### 3. 2020年度 重点課題

- (1) 職員一人ひとりが主体的に園運営に関わると共に、働き続けたいと感じられる職場作りをします。
- ① 園長・副園長が交替となります。幹部体制が大きく変わりますが、引き続き砧保育園の歴史を引き継ぎ、運営が安定していくように職員が力を合わせていきます。そのために副園長・主任など運営委員がおうちの状況をつかみ、運営に反映させていきます。また、安定した運営を行っていくためにも2020年度は人件費に予算を投入し、余力のある体制を確保します。
  - ② 保育4名、給食1名の新入職員を迎えます。新入職員にとっても意識的、主体的に園運営や保育内容について参加できる運営を目指していきます。特に新入職員を多く受入れる保育現場の運営が安定するために園全体で協力し、工夫を行っていきます。
  - ③ 保育園運営を推進する幹部の育成に長期的な視野で取り組みます。砧保育園の幹部を担う世代は、今後結婚出産する世代になります。一部の職員が幹部を担うことは運営上不可能であり、交替しながら継承していく必要があります。また、子育てと仕事を両立させながら幹部の任を皆で担っていく必要があります。そのために、各おうちの責任者を含む運営責任者会議においては、積極的に運営的視点を共有出来る議題を取り入れると共に、従来通り保育内容の充実も位置付け、運営・保育の両輪で思考できる職員に育っていける施設となることを目指します。また、砧保育園は0歳児保育、1・2歳児保育、3～5歳児異年齢保育でセクションが分かれており、環境的にも分かれているので、その結果意識的にも分かれてしまいがちな構造があります。2020年度は意識上での分けができるだけ薄くなるよう全体で課題を共有し意見を出し合うことで、今まで以上に保育の視野を広げ、どのセクションの事も理解しながら園運営について考え合えるよう努力していきます。
  - ④ 職員一人ひとりがこれまで以上に生き生きと意見を出し合い、納得し合いながら働いていけるような会議運営を検討します。そのために、行事関係等の会議を効果的に行えるよう整理する1年とし、2021年度以降の会議計画に反映していきます。
  - ⑤ 砧保育園の特徴として、異動職員等の他施設経験者が多く在籍しています。その利点を活かし、砧保育園が積み上げてきた保育を土台にしつつも多角的な視野で保育を捉え直しながら、子どもを中心とした豊かな保育実践をさらに積み上げていきます。職員同士が多様性を認め合いながら、その体験が子どもや保護者の様々な姿への理解に繋がるような深め合いをしていきます。

- ⑥ 子育てしながら働きつづけられる労働環境づくりを皆で検討し実践していきます。2020年度は育児休職復帰者が2名加わり、子育て中の職員が7名となります（育休取得職員1名含む）。加えて育児時間短縮勤務者1名、育児時間取得者1名となります。休日保育を実施していない自治体に住む職員もおり、1人1人の職員にとっての子育て環境は様々です。また、子育て中の職員が家族との時間をしっかりと確保できるよう、土休日専任の有期契約職員を雇用する等検討します。職員全体の労働環境を改善することにより、休日保育の出勤回数を軽減するとともに、子育て世代の時間短縮、休日祝日保育勤務の軽減を行っていきます。

(2) 子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目指します。

- ① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育をおこないます。何を大事に保育していくのかについて深め合っていきます。
- ② 異年齢保育を深め発展させます。3～5歳児の異年齢保育の蓄積を活かし、2016年度から行っている異年齢クラスと1・2歳児との交流は、日常生活の中で個別の要求に基づいてたくさん触れ合う実践を積み重ねてきました。その中で、異年齢保育だからこそ感じられる子ども同士の育ち合いを保育総括会議などで確認し、共通認識にしてきました。また、2019年度は砧保育園の施設条件の中で何ができるのかについて考えながら異年齢保育の実践を積み重ねた1年でした。2020年度はその土台に立ち、さらに取り組みを発展させるために1～5歳児の異年齢保育を行っている法人内施設への見学等、豊かな実践にふれて学びを深めていきます。
- ③ 延長保育について、2020年度においては新入職員が多いことや希望職員がいなかったこともあり、専任職員を配置しない1年となります。そのため職員間のローテーションが多くなり、日々の延長保育利用児の安定した保育や運営が困難になることが懸念されます。そのような状況に対して、定期的に状況を共有しながら、より職員間の連携を大切に位置付けていきます。また、可能であれば年度内に有期契約職員を固定的に配置し、体制と内容の安定を図りたいと考えています。近年は延長保育と早朝保育は専任者が月案を立て、運営責任者会議で保育計画を共有することに取り組み、保育内容が安定していました。2020年度は延長保育、早朝保育共に専任者を置くことはできませんが、これまで積み上げてきたものを継続して取り組めるよう、担当主任や早朝保育の月案立案者を分担するなど具体化していきます。そのように位置付けることで、延長時間にかかる子ども達が引き続き安心し、主体的に過ごせるような保育とできるよう努めていきます。
- ④ 近年延長利用児や休日保育利用児が減少してきています。今後この状況を鑑みて補助金の削減等の制度的な変更が懸念されるため、財源も含めて総合的な対応の検討を進めていきます。

⑤ 新保育指針については、自分たちの保育実践と照らし合わせ、砧保育園の指針を持てるよう努力していきます。

⑥ 砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いているため、幼児定員の弾力運用については2019年度から3ヶ年計画で解消し、本来の定員に戻していくことを検討してきました。2020年度に向けては、世田谷区との関係で1名減は合意が得られましたが、保育料無償化との関係で今後の進展がない状況となっています。2020年度も計画として持ちつつ、引き続き情勢との兼ね合いに考慮しつつ検討を進めていきます。

⑦ 世田谷区休日祝日保育事業を安定的に運営させていきます。休日保育事業では固定的な利用がほとんどです。常勤職員の専任者は配置できていませんが、有資格有期契約職員を1日あたり2名配置し、利用児童が安心して生活できるように配慮しています。また、2019年度は予算が増額され、安定的な運営に繋がりました。

(3) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力します。

地域担当チームを中心に地域要求に応える活動を行います。0歳児を中心にした広場、園庭遊び等の子育て支援活動を充実し、ホームページ等で広報活動を行います。また、近隣の保育園や児童館、自治会、住民とも交流しつつ協力関係を作っていくことで、災害時に互助の関係性が発揮される土台作りを進めていきます。

(4) 施設整備を計画的に行っていきます。

中期の修繕計画を作成し、財政的な見通しを持ちます。また、美しい環境で育つことで情緒の安定、清潔感覚の育ち、物を大切にする気持ちが育まれます。砧保育園は躯体が世田谷区の所有物であるため、環境整備を要望してもなかなか進まない状況がありますが、施設で独自に財源を確保してでも美しい環境を整備していきたいと考えています。

(5) 保護者と共に歩んでいきます。

① 各おうちの懇談会や保育参加、日常的な会話等を通して保護者の思いや、悩みを理解し共有し合う関係を意識的に形成していきます。また、保護者の置かれている状況を理解する学習（貧困問題・虐待問題・その他）等も行っていきます。

② 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、共に育ち合う関係を作っていきます。

③ 環境整備や行事等、保護者が子ども達のために力を発揮できる場を位置付けることで、子どもへの思いをさらに膨らませたり職員との信頼関係をより確かなものとしたりできるようにします。

#### 4. 職員研修計画

2020 年度は新入職員 5 名を迎えます。砧保育園の保育で大切にしていることを職員みんなで確かめ合いつつ研修を行います。専門家の力を借りたり、法人内の施設に見学に出かけたりする中で砧保育園らしい異年齢保育を目指して深め合い、保育内容の進歩のために研修を行っていきます。

##### (1) 園内研修

- ① 全員研修—応急救護、防災、保育総括、荒馬、ドル平
- ② 講師による研修—わらべうた、陶芸、歯科医の講座、メンタルヘルス研修。
- ③ 新人研修—申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、他
- ④ ケース検討—配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家とともに検討します。
- ⑤ 必要に応じて運営会議で検討を行い、講師による講座で研修を行います。

##### (2) 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回指導を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

##### (3) 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加を検討します。

##### (4) 見学研修

異年齢保育の検討を行うため、法人内施設の保育を見学し、研修を行います。

##### (5) 法人研修

法人合研、新人研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みます。

##### (6) 自主研修

- ① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人計画をたて、目標をもって研修を行っていけるようにします。
- ② 自主的に学ぶことによって、実践が深まっていくことを大切にします。



# 上北沢こぐま保育園 2020年度事業計画

## 1. 事業内容

(1) 認可定員 92名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	16	16	16	17	18	92
在籍児童数	9	16	16	16	17	15	89

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7時15分～20時15分

(4) 延長保育 18時15分～20時15分

(5) 1歳児～5歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域活動事業（体験保育、産前産後体験、ボランティア、実習生の受入れ等）

## 2. 児童状況 2020年2月現在

年齢	新入園児	アレルギー児	障害児	外国人家庭	育児困難家庭
0歳児	9名				1名
1歳児	7名	1名			
2歳児	2名	2名		1名(仏)	1名
3歳児					
4歳児				1名(仏)	
5歳児			2名	1名(越南)	
定期利用児					

## 3. 職員状況

(1) 常勤職員

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1名	2名	1名	1名	19名	3名	2名	29名

\*主任 3名（保育士・看護師・調理師）

(2) 常勤職員状況

\*新規採用者 保育士2名

\*法人間異動者 保育士1名

\*育休復帰者 栄養士1名

(3) 有期雇用職員

職種	0歳	異年齢	ひろば	合計
人数	2名	6名	2名	10名

(4) 嘱託医

- \*小児科医 山角聡美 (三宅小児科)
- \*歯科医 三上祐一郎 (三上歯科医院)

(5) 業務委託

- \*保育システム 株式会社コドモン  
株式会社 hugmo (呼吸観察)
- \*写真撮影 黒田雄一
- \*ゴミ処理 藤ビルメンテナンス
- \*セキュリティ 株式会社ザ・トーカイ

(6) 講師

- \*言語聴覚士 永田裕美子

#### 4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—6名

\*受け入れ対象児

- ・1歳児～就学前（離乳が完了している児童）
- ・3歳児以上は両親ともに就労している家庭かつ、幼稚園との併用は不可（夏季期間など長期休みは除く）
- ・年2回の更新を基本とし、登録希望の方がいたらその都度面談を行います。
- ・園長決裁で緊急性がある児童は受け入れていきます。

(2) 定期利用保育 定員—      名（1歳児・2歳児・3歳児）

定員が割れている施設で通常保育に支障がなく、面積基準を満たす場合、1年間限定で待機児を受け入れる制度です。世田谷区運営費、東京都キャリアアップ補助金への園児数定員は対象外。東京都サービス推進費により、一時保育利用延べ人数として対象になりますが、その他科目（外国人家庭、育児困難家庭など）は対象外。

(3) おでかけひろば事業 週3日（火・水・金）5時間（10時～15時）

ひろば担当職員を配置し、世田谷区の子育て支援コーディネーターの巡回も月一回実施。専門的な知識を持ち合わせた、保育所でのひろば実施の特徴を活かしていきます。

## 5. 研修計画

- \*新入職員も含め、法人、園で大切にしていることを共有、振り返りを行い、学び合いながら保育をおこなっていきます。
- \*一人ひとりの職員が課題をもち、自己評価シートで課題を明確にし、意識的に研修に参加していきます。
- \*保育情勢や他園の保育環境を知ること、職員の保育力を高めていきます。
- \*姉妹園の応援や交流も積極的に行い、法人内園の状況も理解します。

### (1) 園内研修

- ・伝承あそび研修
- ・園内遊具の扱い方、遊び方、環境設定等
- ・防犯防災対策
- ・事例検討研修（総括会議時実施）
- ・保育雑誌ちいさいなかまの活用
- ・調乳研修
- ・課業研究会（わらべうた、体育、美術、民舞、ドル平）
- ・世田谷区保育の質ガイドライン
- ・汚物処理研修

### (2) 法人内研修

- ・中堅層研修
- ・新人研修
- ・法人全体研修
- ・給食部会
- ・保健部会
- ・交換研修

### (3) 園外研修

- ・世田谷区の研修（公開保育）
- ・東京経営懇、全国経営懇の研修
- ・キャリアアップ研修
- ・コダゲーイ芸術教育研究所（わらべうた・体育）
- ・サンモックの会（美術）
- ・他園出張研修
- ・自主研修（職員が研修課題を持って意識的に学ぶもの）

## 6. 重点課題

### (1) 園長交代に伴い園内の役割分担を明確化することで、円滑に園運営を行うことを目指します。

- ・主任体制を強化し、副園長とともに保育内容を重点においた運営を行います。
- ・クラス運営業務のノウハウを運営側からもフォローし、責任者の育成にも力を入れていきます。
- ・幹部も含めた園内職員異動を行い、多種多様に考えられる人材育成を行います。
- ・各係、会議など職員が意欲的に参加し、運営できる関係性を目指します。

### (2) 職員が違いを認め合いながら、他の職員とともに保育を作り合い、自分らしく働き続けられる関係を目指します。

- ・子どもの姿から、職員の経験や感じたことを率直に出し合いながら作り合う、クラス運営を目指します。
- ・職員が一つ一つの事象に対し、自己課題を明確に捉えた上で、周りの職員や運営側と共有しながら複数判断ができるよう心がけます。
- ・職員が主体的に園全体の運営に関り、他職員とともに共有協力し合いながら、役割

をはたしていきます。

- ・セクション毎に有期職員との話し合いの時間を作り、子ども理解、親理解に努めていきます。又、有期職員の想いや悩みも理解し合いながら円滑な保育運営ができるよう努力します。

**(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。**

- ・日常的におうちだけでなく、0歳児や地域も含めて子ども同士も大人同士も交流し合い、子どもの姿を共有できるようにします。
- ・異年齢の育ちのなかで、伝承されてきている事項を大切にし、子どもたちと一緒に作っていく保育をおこないます。
- ・子ども一人ひとりを尊重し、年齢や個別にあった保育を行っていきます。
- ・子ども理解、保育を深めていくためにも学習を基本に、園内研修、法人研修、自主研修等の研修に参加していきます。また、職員会議、総括会議等で学んだことを共有し合います。
- ・個別配慮児や支援が必要な児童、家庭については、園内で関り方などを共有し、必要に応じて子ども家庭支援センター等の関係機関との連携をおこなっていきます。
- ・保育所保育指針の内容を理解し、実際の子どもたちの状況から必要な保育実践に取り組んでいきます。
- ・各おうち毎に遊具購入計画立て、子どもの姿に即した環境設定を行います。

**(4) 保護者の状況や思いを職員間で共有し、保護者が主体的に保育園に関わる関係を目指します。**

- ・保護者主体で行事や取り組みをはじめ、園理解を求めるとともに、保護者の思いに寄り添って行けるように心がけていきます。
- ・直接、保護者とのやり取りを積極的に行い保護者理解、家庭理解へとつながるよう努力します。
- ・日々の様子の伝え方を全体的な記載の仕方に変更し、他児との関係を理解してもらうとともに、集団保育への理解につなげていきます。

**(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。**

- ・地域の保育要求を把握しながら、地域に必要とされる保育園を目指し、在園児との交流もはかっています。
- ・「おでかけひろば」は常勤配置を行い、園全体で地域の保護者、子ども理解へとつなげていき、取り組み内容を考えられるように努力します。
- ・公立の松沢保育園、近隣保育園との交流も積極的に行い、子どもたちの豊かな成長につなげます。又、災害や緊急時等はお互いに助け合える関係性をつくります。
- ・隣接する、障がい者施設、高齢者施設との交流を実現していきます。

## 永山小学童クラブ 2020 年度事業計画

- 1、定員 70人
- 2、育成年齢 6歳～12歳  
(小学校1年生～6年生\*5,6年生は特別支援学校または支援学級在籍児童)
- 3、育成時間 学校下校後～19時  
学校休業日(春、夏、冬休み、土曜日、学校行事振替休日)  
8時～19時
- 4、児童状況 (4月1日在籍予定数)

	人数	モアサービス利用予定
1年生	25人	2人
2年生	29人	5人
3年生	12人	2人
4年生	3人	0人
5年生	1人	0人
計	70人	9人

\*要配慮児童 12人

### 1年生の出身園

保育園	人数	幼稚園	人数
こぐま保育園	8	錦秋幼稚園	2
ゆりのき保育園	2	諏訪幼稚園	1
かしのき保育園	2	おだ認定こども園	1
こぼと第一保育園	3	パティスポーツ幼児園はるひ野	1
貝取保育園	2		
ピオニ-保育園	2		
キッズサポートたま第2めぐみ保育園	1		

### 5、職員体制

常勤職員 5名

要配慮児対応職員 7名 6h×5(1名)、5h×5(1名)、  
4h×4(4名)、隔週2h×2(1名)

## 6、2020年度重点課題

### 〈育成目標〉

- ・ 子どもが自分から進んで学童クラブに通いたいと思えるよう支援する。
- ・ 異年齢集団であることと、固定級の児童も多くいることを生かし、お互いに学び合い、助け合い、共感し合い、育ちあう環境づくりを目指し、職員も学び合い、育ちあう。
- ・ 自分のことは自分でできるよう支援する。
- ・ 命の大切さや心の痛みのわかる子に育つよう支援する。
- ・ いきいきと自分を表現できる子に育つよう支援する。
- ・ 子どもの権利を守る。

### 〈全体として〉

- 1、3年目となるグループ担当制を施設経験として充実をめざす。職員の状況やグループ編成に変動があるが、それらに柔軟に対応しながら、グループ担当制のメリットを生かしていくことで、子ども達個々のニーズに丁寧に対応していく。
- 2、職員間の連携を密にし、育成レベルの底上げをしていく。特にグループ内での共通認識を持てるよう、日々の打ち合わせ月 1～2 回のグループ内の打ち合わせを時間内にできるよう工夫する。
- 3、いままで「〇〇教室」としていた行事をこども会議とし、受動的な内容の行事にも子どもたちが進行や担当を担えるよう、子どもたちと一緒にルールを決めたり、主体的に学べるようにする。
- 4、障がいについて（自閉症スペクトラムや発達、対応など）短時間職員も含め研修の機会を保証する。（法人内や、外部も含め）
- 5、防災対策を強化する。

### 〈育成内容〉

- ・ 年間計画、期間目標、月目標をたて、全体の育成を組み立てていく。季節行事や遊びの展開、防犯防災、健康管理、卒クラブ対策など時期に応じて盛り込んでいく。
- ・ 個別支援計画は特に要配慮児童については、長期・中期・短期目標を立て、日々や月案計画やグループ会議で支援の見直し・共有を密にし、実践に繋いでいく。
- ・ 自発的な遊び、自然発生的な遊びの保障ができるよう、レイアウトや遊びの働きかけや環境を工夫する。
- ・ 避難訓練・防災訓練は引き続きバリエーションを増やして、様々な状況に対応できるよう工夫する。

#### 〈保護者との関係〉

- ・ 日々の連絡帳や、お迎えの時にその日の様子などを基本的には、グループ担当の職員が丁寧に伝えていく。お便りやホームページでも全体の様子がわかりやすいよう、工夫する。
- ・ 日常的に保護者の気持ちに寄り添い、なんでも話し合える関係を作っていく。
- ・ 保護者会の内容や持ち方を工夫し、夏や秋の保護者会の参加率が上がるよう工夫する。
- ・ 父母会との協力も密にし、運営・存続維持に協力し、親子交流会や共催行事も協力し支えていく。

#### 〈環境整備〉

- ・ 各グループが生活動線に無理がないよう折に触れ見直しをする。
- ・ 耐震対策を計画的に進めていく。
- ・ 遊びの種類によって無理のない住み分けができるよう、遊具の配置・収納を見直す。また、片づけやすいレイアウトを工夫する。
- ・ テラスのプランターやレイアウトを見直し、癒しの空間づくりをめざす。
- ・ 事務室やロッカーの備品の整理整頓を心掛ける。

#### 〈地域・学校・専門機関との連携〉

- ・ 学校とは連絡を密にし、情報共有を図り協力・連携する。
- ・ 子育て総合センター、発達支援室、島田療育センターなどの専門機関とは密に情報交換しアドバイスを受ける。
- ・ 児童館とも連絡を密にとり、協力関係を維持していく。
- ・ 乳幼児ネットワーク会議や青少協の会議、地域行事に参加・協力し、地域とも連携を図る。

#### 〈法人内の交流〉

- ・ 4学童クラブでの研修や会議で事例・情報を共有し、職員のスキルアップにも繋いでいく。
- ・ こぐま保育園との交流も内容を見直しつつ、引き続きより良い交流を継続する。

#### 〈職員研修〉

- ・ 短時間の職員も可能な範囲で参加できる研修には、積極的に参加できるよう配慮する。(支援員研修など)
- ・ 障がいや育成については職場内でも勉強できる機会を設ける。
- ・ 研修計画、別紙参照

〈民主的で働きやすい職場環境づくりについて〉

- ・ 職員の自主的な運営をすることで、働き甲斐を実感できる職場環境づくりを目指す。
- ・ 忌憚なく意見が言え、お互いを尊重し、学び合い育ちあう関係を作っていく。
- ・ リフレッシュできる環境を整備する。



## 令和2年度 永山小学童クラブ 年間計画

多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
  - ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
  - ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。
支援目標	<余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実（自発的・自然発生的な遊びの保障） (3)支援学級在籍児童が多く異年齢集団である特徴を生かし、学び合い、協力し、共感し合えるよう支援する <生活支援> (1)手洗い、うがい・着脱衣などの自己管理ができる (2)後片付けや、物の管理ができる (3)食の大切さを学ぶ <安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯教室・防災訓練 (4)交通安全教室
学年目標	1 年 生 自分のことは自分でしよう。言葉で伝えよう。 2 年 生 自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。 3 年 生 学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4～6 年 生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身に着ける ・仲間意識を育てる ・こどもの個性を把握する ・夏休みの生活の充実	・新しい生活環境に慣れよう ・自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月		・色々な遊びを経験しよう ・新しい友達とも遊ぼう	☆こまやけん玉の検定にチャレンジする ☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆工作や、室内遊びの充実
7月		暑さに負けず楽しく遊ぼう	☆体調管理に気をつける ☆暑いときの遊びの工夫
8月		・規則正しい生活を送ろう ・夏休みを楽しもう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の新たな構築と充実 ☆継続的な遊び
9月		生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		元気に外で遊ぼう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		健康管理に意識を向けよう	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月	仲間と協力しよう	☆校庭だけでなく公園での遊びの充実	
1月	・進級に向けての意識作り ・自己管理の力を高める	・健康管理に気をつけよう ・ことばで気持ちをつたえよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		・自主的活動を楽しもう ・生活を見直そう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		・進級に向けて準備をしよう	新1年生受け入れの心の準備 3・4年生……卒クラブ後の生活に向けての対応

第1号様式の2

永山小学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校・地域	その他
4月	新入生歓迎会15日(水)	避難訓練 降所指導	新入生へのプレゼント制作 コマづくり	保護者懇談会日(16日)	入学式 6日(月)	
5月		避難訓練 引き渡し訓練15日(水)		個人面談		
6月	映画会①	避難訓練	雨の日工作	親子交流会 日(土)		歯磨き教室
7月	クッキング・映画会②	避難訓練,CAP お留守番教室	七夕飾り	保護者懇談会 CAP		虫捕り
8月	学童交流	避難訓練	夏休み工作 手芸			虫取り・水遊び 父母会共催井の日
9月	映画会③	避難訓練 総合防災訓練				
10月		防犯訓練 避難訓練		保護者懇談会	地域防災 地域運動会	
11月		避難訓練 降所指導	感謝カード	個人面談		手洗いチェック
12月	お店屋さん カレーパーティ	避難訓練 3年生CAP	ゆびあみ	3年生保護者懇談会		大掃除
1月	遠足準備	避難訓練	書初め		こぐま交流	父母会共催どんぶりの日
2月	3年生お別れ遠足 <small>(永山第2学童クラブと同日実施)</small>	お留守番教室 避難訓練				お留守番のお守り
3月	進級を祝う会 クッキング・映画会⑤	避難訓練		入所説明会	卒業式 児童館利用体験(3年)	

ねらい  
＜行事＞

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……新入生歓迎会・進級を祝う会  
みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……お店屋さん・進級を祝う会  
社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする……お別れ遠足、お留守番講座等  
作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。  
災害や交通、防犯など自分の安全を守るため意識を高め、知識やスキルを身に着ける

＜制作活動＞  
＜防犯・防災＞

## 2020年度研修計画

## 永山小学童クラブ

研修名	主催	日時・回数等	内容	参加者
学童担当者会議	多摩市	新人以外は隔年参加も可	・応急処置 ・人権 ・災害対応 ・発達支援室 ・こどもの見立て ・子育て総合センター	常勤全員
基礎学担	多摩市	3回	学童クラブの基本的な目的と業務全般について学ぶ。施設長が分担してレクチャーする。	新人職員と希望者 施設長全員
中堅学担	多摩市	10月～ 3回	中堅職員が、ポスト施設長として或いは、新人職員に仕事を教える立場として基礎をより深く学ぶ	中堅職員と施設長 数名
課内研修	多摩市	2回	子育て支援に関わる人たちが日々直面する課題。2019年度は発達障害の児童理解についてと、愛着について。	常勤・短時間職員 全員
東京都放課後 児童支援員認定 資格研修	東京都		放課後児童クラブ運営指針についてと指針に沿って学童クラブの目的や支援員の業務全般及び児童期の子ども全般・遊び等	新人職員
アレルギー研修	東京都 多摩市		・主に食物アレルギーについて ・エピペンの使い方	新人職員 2年目職員
法人研修	多摩福祉会		・新人研修 ・合同研修会 ・中堅層研修	新人職員 全職員 中堅職員
連協研修	全国学童クラブ 連絡協議会		学童クラブの現状の問題点や今後について。職員のスキルアップ。保護者 同士意見交換、共有など。2020年は 山形。	希望者 (自主研修扱い)
三多摩フォーラム	三多摩連協		連協研修三多摩版	希望者 (自主研修)
法人学担	多摩福祉会学童 クラブ四施設	学期に1回	毎年テーマを決めて学童クラブ支援員としてスキルを上げる。2019年度は施設交流など	常勤職員全員
職場シミュレーション	永小学童クラブ	随時	アレルギー対応 応急対応 防災・防犯関係	常勤・短時間職員
島田巡回相談	島田療育センター	1～2回	支援児対応等	常勤・短時間職員
障がいについて基礎研修			自閉症・発達・対応等について	常勤・短時間職員
救命救急講習	消防署		救命救急・AEDの使い方	常勤 (新人、更新年度職員)
東社協関係	東社協		財務関係 労務関係 マネジメント	担当者
日本学童保育学会 研究大会	日本学童保育学会		実践研究報告と学童クラブの課題等を現場とグローバルな視点で討議し 深め合う	希望者 (自主研修)

## 貝取学童クラブ 2020 年度事業計画

1. 定員 70 名
2. 育成年齢 6 歳～10 歳（小学 1 年生～4 年生）  
8 月一時入所は 6 年生まで  
特別支援学校、特別支援学級に通う 5、6 年生は申請可
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
4. 4 月 1 日在籍予定数

	計
1 年生	18 名
2 年生	22 名
3 年生	20 名
4 年生	4 名
計	(64 名)

### ① 新入所児状況

1 年生 18 名 2 年生 2 名

\* 在籍児の弟妹：3 名

\* アレルギー児：生卵、いくら 1 名、メロン（赤肉）1 名

\* 要健康配慮児：ぜんそく 1 名、アトピー 2 名、遠視性乱視 1 名、ひきつけ 1 名 乾  
燥性湿疹 1 名、偏頭痛 1 名

\* 要配慮家庭：7 名

\* 要配慮児：個別加配 0 名、通常加配 4 名

\* モアサービス利用：5 名

\* 土曜利用：5 名

\* 出身保育園、幼稚園

保育園	人数	幼稚園	人数
貝取	1	せいとく	1
ピオニイ第二	1	東京大谷	1
あおぞら	1	緑ヶ丘	1
かおり	3	富士ヶ丘	1
かしのき	1	鶴川若竹	1
こぐま	1		
ゆりのき	1		
りすのき	1		
みさと	1		
みらい	1		

## ② 在籍児状況

- \* 要配慮家庭 : 5名
- \* 要配慮児 : 個別加配 1名、通常加配 14名
- \* モア利用者 : 5名
- \* 待機児童 : 名
- \* アレルギー児 : 2名

## 5. 職員体制

- (1) 常勤職員 4名
- (2) 有期契約職員 7名 :
  - 〈おやつ担当〉 4時間×週 5日 : 1名
  - 〈要配慮児対応〉 4.5時間×週 4日 : 1名、4時間×週 4日 : 1名  
4.5時間×週 3日 : 1名、4時間×週 2日 : 1名
  - 〈土曜日対応〉 7時間×週 1日 : 1名
  - 〈事務員〉 6時間×週 3日 : 1名

## 6. 2020年度 重点課題

### <育成目標>

- ・ 異年齢集団の良さを生かし、助け合い喜び合う心を育てる。
- ・ 自分の事は自分でできる子に育てる。
- ・ 命の大切さや心の痛みの分かる子に育てる。
- ・ いきいきと自分を表現できる子に育てる。

### <全体として>

- ・ 少人数グループ担当制の充実。職員の入替わりが若干あるので子どもたちの心のケアに気を付ける。
- ・ 月3回程旧北貝取小学校の校庭を利用し、思い切り身体を動かす機会を作る。
- ・ 環境整備に力を入れ、子どもたちが落ち着いて過ごせる空間ができるよう環境を整える。
- ・ 野菜の栽培をしたり、花を育てたりして季節を感じる事が出来るような取り組みをする。
- ・ 子どもたちの創造力を育てることを大事にし、工作や手芸の材料をそろえる。
- ・ 職員配置が変わるので保護者との関係作りを大事にしていく。
- ・ 学校、保育園、幼稚園、その他関係機関と情報を共有し協力しながら子どもたちの育成に努めていく。
- ・ 豊ヶ丘小学校と貝取小学校の子どもたちの交流の場として行事など一緒に活動できる機会を多く持つようにする。
- ・ 職員一人一人が学童クラブ全体の様子を常に気にかけて適切な職員配置ができる力をつける。

### <保護者との関係>

- ・新入所児の状況を把握し、保護者の気持ちや悩みに寄り添っていける関係づくりをしていく。他のグループの状況にも関心を持ち、子どもたちの日々の様子は必ず毎日の打合せで伝え合う。
- ・お迎えに来た保護者にはその日にあった出来事を少しでも良いので伝えていき、保護者が職員に声をかけやすい雰囲気を作っていく。
- ・日頃お迎えに来られない保護者とは連絡帳や電話を活用し、子どもの状況を共有していく努力をする。
- ・毎月のお便りは行事や日々の子どもたちの様子を伝えるとともに、伝達ツールとしても活用していく。
- ・保護者会の折には仕事を終えて疲れて帰ってきた保護者をねぎらい、その日のおやつを少量でも提供し、親にとってもホッとできるような場を目指す。写真などで子どもたちの日頃の様子を伝える。保護者会の資料を見やすい内容にして活用できるようにする。来てよかったと思えるような保護者会を目指す。
- ・保護者同士のコミュニケーションの場として保護者に積極的に場所を提供する。
- ・全国学童保育連絡協議会と連携を取り、学童保育を取り巻く情勢等について情報交換を行っていく。

### <環境面>

- ・グループ制のための配置はほぼ出来上がったが、使いやすさ、片づけやすさ等を見直しすっきりとした環境を保っていきたい。
- ・不用品の整理を引き続き行い、片付いた環境を維持する。(大、小倉庫の整理、受託前からの粗大ごみの廃棄等)

### <関係機関>

- ・学校と連携し、子どもたちの状況を共有していく。
- ・各関係機関(発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等)との連絡を密にしていく。またその中で得た情報は守秘義務を守りながら職員間で共有していく。
- ・乳幼児ネットワーク会議、青少協、子育てミーティングなどに出席し地域とのつながりを作っていく。

### <育成計画>

- ・計画は年間、三期、月単位で立てながら育成していき、月ごとに振り返りを行い、年度末に総括をする。
- ・防犯、防災の意識を高め、毎月避難訓練、防犯訓練、防災訓練等を行う。
- ・子どもたちが自主的に喜んで参加できるような行事を積極的に取り入れていく。企画自体を子どもたちが考えられるように取り組む。
- ・法人内の学童クラブと交流を深め、子どもたちの居場所として地域を意識した連携をしていく。

- ・卒クラブ後の子どもたちを見据え、児童館とも連携していく。

#### <職場として>

- ・職員自身が自分で考え行動してたくさんの経験ができるよう、お互いを尊重し、援助し合える関係を作っていく。
- ・グループ内はもとより他のグループとの話し合いの時間も多く持ち、常に子どもたちや保護者の状況を共有し合えるようにする。
- ・職員がリフレッシュできるような環境を作る。皆が有給休暇を取得できる環境を作っていく。
- ・短時間職員もやりがいを持って育成に当たれるよう、常勤職員と共にグループ運営の担い手として意思疎通を図っていく。
- ・常勤職員、短時間職員ともに自主的に研修に参加していけるようにする。
- ・運営上の仕事を分担し、協力し合う。
- ・職員の健康管理に気を付け、健康診断、毎月の細菌検査等を行う。
- ・就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

#### <職員研修計画> 別紙参照

## 2020年度 貝取学童クラブ 年間計画

## 多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
- ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。 4.主体的に行動し、日々の生活の中で充足感を得る。		
支援目標	<余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 (3)異年齢集団の特徴を生かし、社会性・協調性を育む  <生活支援> (1)食の大切さを知る (2)後片付けができる (3)手洗い・うがい・気候にあった着脱衣ができる  <安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯・防災指導 (4)交通安全指導		
学年目標	1 年 生 自分のことは自分でしよう。言いたいことを言葉で伝えよう。 2 年 生 自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。 3 年 生 学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4～6 年 生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。		
月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身につける	新しい生活環境に慣れよう 自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月	・仲間意識を育てる	楽しい遊びを見つけよう	☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう 関わり合いを大事にしよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆室内での過ごし方の工夫
7月		自立心を高めよう	☆身辺自立を促す
8月	・自分で生活を組み立てて過ごすことを学ぶ	夏休みを規則正しく過ごそう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の充実 ☆継続的な遊び
9月	・自主的な遊びの展開	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月	・交友関係の拡大を図る	仲間同士協力し合おう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		自然に親しむ	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月		物の管理、体調管理をしよう	
1月	・次年度に向けての意識作り	自分たちでできることをやってみよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		進級・卒クラブに向けて準備をしよう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		一年間を振り返り、成長を認め合おう	新1年生受け入れの心の準備 3・4年生……卒クラブ後の生活に向けての対応



2020年度 貝取学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 交通安全教室	新入生へのプレゼント製作	保護者懇談会20日(金)	入学式 担任との打合せ	降所指導
5月	お留守番講座 誕生会	避難訓練 引き渡し訓練9日	春の工作	個人面談		ひなの会
6月	誕生会	防犯教室		親子交流会 夏休み説明会		
7月	誕生会	交通安全教室		昼食会		ひなの会
8月	映画会・お楽しみ遠足 誕生会		夏休み工作	昼食会		
9月	誕生会	避難訓練 総合防災訓練			職場体験	ひなの会
10月	おみせやさん 誕生会	防犯訓練		保護者懇談会		冬時間降所開始
11月	誕生会	避難訓練	工作週間 (のびのび豊ヶ丘祭り)	3, 4年個人面談		ひなの会
12月	3年生遠足 おたのしみ会 誕生会	防犯教室		豚汁パーティ		集団遊び
1月	お留守番講座 誕生会	避難訓練				ひなの会
2月	誕生会	防犯教室	3年生へのプレゼント製作			
3月	おわかれ会 誕生会	避難訓練		入所説明会 卒クラブ式	卒業式 担任との情報交換	ひなの会、児童館見学

ねらい

<行事>

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……………新入生歓迎会・お別れ会等  
 みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……………お楽しみ会等  
 社会性を身につけ、自主的行動を实践する機会とする……………卒クラブ遠足、お留守番講座

<制作活動>

作る喜び、考えた事が形になる喜び、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

2020年度 貝取学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ 担当者 基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全 員と2, 3年目の 希望者	5月～ 9月
学童クラブ 担当者 中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦す る職員	未定
学童クラブ 担当者 会議(全6回)	多摩市	・応急処置について ・人権について ・防災について ・子どもの見立て ・子育て総合センターに ついて ・発達支援室について	常勤職員	6月～ 2月
課内研修(全2回)	多摩市	(2018年度)・保護者へ の伝え方と信頼関係を 築く対応 ・教育センターについて	常勤職員	10月
全国学童保育合同 研究集会	全国学童保育 連絡協議会	学童保育についての全 体会および分科会形式 の合研	常勤職員2名ま で	10月
保護者・関係者向け 研修	島田療育 センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研 修	保健所	発達障害、精神障害、愛 着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合 センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	学童保育についての全 体会および分科会形式 の合研	全職員	年1回
法人学担	三学童クラブ 常勤職員	事例、法令等の学習	常勤職員	隔月 1回
法人合同研究集会	多摩福社会	法人内すべての施設の 合同の研究集会	全職員	年1回
新人研修	多摩福社会	新入職員に対し、在職職 員の体験発表など	新入職員	2月
キャリアパス対応 生涯対応研修課程 初任者・中堅職員・ チームリーダー・管理 職員 その他強化研 修	東京都社会福祉 協議会	・自らのキャリアアップに ついて考える ・立場の役割行動を遂行 するための基本を学ぶ	常勤職員	各研修 年2回

## 永山学童クラブ 2020 年度事業計画

1. 定員 70名
2. 育成年齢 6歳～10歳（小学1年生～4年生）  
及び、特別支援学校または特別支援学級に通学している5,6年生  
8月一時入所は6年生まで
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00
4. 児童状況（4月1日現在在籍予定数）

学年	計
1	9名
2	6名
3	9名
4	8名
5	0名
6	0名
合計	32名

### ① 新入所児状況

1年生 9名

\*要配慮児：1名

\*モアサービス利用予定：1名

\*新1年生出身保育園、幼稚園：

こぐま保育園	5名
かしのき保育園	2名
貝取保育園	2名

### ② 在籍児状況

\*要配慮児：7名

\*モア利用予定者：3名

### 5. 職員体制

(1) 正職員 3名

(2) 有期職員 5名：要配慮児対応

4時間×週5日 1名 4時間×週4日×2名

4時間×週3日 1名 土曜日専任（7時間）1名

## 6. 2020年度 重点課題

### <育成目標>

- ・ 自分の事は自分で考えてできる子に育てる。
- ・ 自分の言葉で自分の気持ちを正しく表現できる子、いきいきと自分らしく生きていく子に育てる。
- ・ 自分を大切にすると共に他の人の気持ちを理解し思いやり尊重できる子に育てる。
- ・ 異年齢集団の中で助け合い協力してひとつのことを成し遂げる喜びを得られるようにする。

### <全体として>

- ・ 今年度も子ども達を2つのグループに分け、正職員をそれぞれのグループの担当に配置し有期契約職員と共にきめ細かな育成を目指す。
- ・ 行事や日常のグループでの活動を通じて子ども達が主体性を持って行動できるように支援する。
- ・ 野菜作りや簡単な調理などの「食」に関する活動を通じて卒クラブ後に自立した生活が出来るようにする。
- ・ 子ども達が適切な言葉で互いに気持ちを伝え合えるようにする。
- ・ 全職員が協力し日々の育成について共通認識をもって学童クラブの運営にあたり、安心と安全な育成環境を保護者や子ども達に提供するよう努める。
- ・ 研修に参加しそれを職員間で共有することにより全職員の資質の向上をめざす。
- ・ 地域や学校、専門機関との連携をはかり、情報を共有し協力しながら児童の育成に努めていく。

### <保護者との関係>

- ・ 連絡帳やお便り、HP、あるいは施設にいつでも見られるようにアルバムを用意することで保護者に日々の子ども達の様子をお知らせする。
- ・ 必要に応じて保護者に電話や面談で気になることを伝えたり、保護者からも日常の子どもの様子をうかがったり、相互に子どものことを共有し育成に協力し合える関係を目指していく。
- ・ 常に保護者の心に寄り添い、保護者が相談などをしやすいような職員であるよう心掛ける。
- ・ 父母会役員会に協力したり父母会との共催行事を実施したり保護者との活動に積極的に関わる。
- ・ 親子交流会のような行事や保護者会の内容を工夫し保護者同士が交流をはかれるようにする。
- ・ 保護者会が保護者にとって日常の子どもの様子を理解できる機会、有意義な内容となるよう工夫する。

#### <環境面>

- ・ 外遊びについて 注意事項を掲示しそれを子ども達に確認させ準備運動を必ずしてから遊ぶように習慣づけて子ども達自ら怪我や危険を回避できるようにする。
- ・ 職員が率先して整理整頓を心がけ、物を大切にすることを示す。
- ・ 物の置き場をわかりやすく表示し子ども達がおもちゃなどを片付けやすいよう工夫をする。
- ・ 子ども達に週1回のロッカー掃除などを通じて自分の物の管理や整頓を促す。
- ・ 年末の大掃除などを通じて子ども達と共に快適に過ごせる環境を整える。
- ・ 市と連携しながら施設の安全をはかる。

#### <関係機関>

- ・ 乳幼児ネットワーク会議、青少協などに出席し地域とのつながりを作る。
- ・ 関係機関(発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等)と連絡を密にしてその情報を共有し育成に生かしていく。その際の情報については守秘義務を徹底して守る。
- ・ 小学校と情報交換を行い相互に子どもの状況を理解し協力できる関係をつくる。
- ・ こぐま保育園と職員も子ども達も交流をはかり互いの育成の理解ができる機会を設ける。

#### <育成計画>

- ・ 年間の育成計画や学期や月単位の目標をたてて日々の育成を行い、その日々の育成を基に行事の目標を設定し計画、実施していく。
- ・ ひとりひとりの子どもへの理解を深め適切な育成をするために グループごとにきめ細かな育成を目指すとともに 毎日の打ち合わせなどで子ども達全員の情報を職員全員で共有するように努め、更に毎月の全職員会議で育成内容や要配慮児童の目標、行事などを検討し共通認識をもって育成にあたる。
- ・ 行事やグループ内のルールなどを子ども達に決めさせたり、それぞれのグループごとの活動の場を増やしたりして子ども達の主体的な活動の場をつくる。
- ・ 子ども達の主体的な活動がうまくできるためにどのような支援が適切であるかを職員間でよく話し合うようにする。
- ・ 簡単な調理をしたり、買い物に行ったりというような体験を通じて子ども達が卒クラブ後の生活において自分の事は自分で出来るようにする。
- ・ 防犯安全教室、お留守番講座、交通安全教室などを通して、卒クラブした後も地域で安心して過ごせるようにする。
- ・ 「言葉で気持ちを伝える講座」などを通じて子ども達が相手の気持ちを理解し場面に応じた適切な気持ちの伝え方が出来るようにする。
- ・ 島田療育園の巡回相談を利用し職員全員で育成方法などについて共通理解を深める。
- ・ 万が一に備え月一回の防災訓練や防犯訓練を実施し、職員も子ども達も地震、火災、不審者などへの対応が出来るようにする。

#### <職員について>

- ・職員が意見を交換しやすい関係作りに努め仕事を分担し協力し合いながら学童クラブの運営にあたる。
- ・日頃から情報や意見をこまめに伝え合い共通認識をもって育成や運営に関わる事を大切にしていく。
- ・連絡事項はわかりやすいようにノートやホワイトボード、付箋メモなどを活用し周知徹底をはかる。
- ・全国、三多摩・多摩市内、課内、法人内、その他の研修や他施設の見学に積極的に参加する。また、学んだことを職員内で共有し相互のスキルの向上をはかり、日々の育成に活かす。
- ・有期契約職員に学童クラブの仕事の基礎を伝えるとともに正職員もその内容を再確認し全職員で共通認識をもって仕事にあたる。
- ・施設長が職員や職場環境がどのような状況にあるかを日々の様子や面談を通じて把握し、課題や問題がある場合はその解決を図り職員ひとりひとりがやりがいを持って仕事に取り組めるような環境をつくる。
- ・健康診断の受診をはじめ職員の健康管理に気を配る。
- ・就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

#### <職員研修計画>

別紙参照

## 令和2年度 永山学童クラブ 年間計画

## 多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
- ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3異年齢集団の活動を通じて創造性、社会性、自主性を身につける。		
支援目標	<生活支援>①挨拶、片付け、清掃、マナー等基本的な生活習慣と知識の習得ができるようにする ②手洗い、うがいや気候にあった衣服の調整など自分で健康管理ができるようにする ③自分で育て作り食べる事を通じ、食の大切さを学べるようにする <余暇支援>①家庭的で落ち着く環境をつくる ②遊びを充実させ精神的安定をはかる ③遊びを通して他人との関わり方を学び心身の発達を促す ④異年齢集団の活動を通じ思いやりを育む <安全指導>①交通安全指導、防犯、防災に関する指導訓練 ②社会のルールの指導 ③帰宅班の降所指導		
学年目標	1 年 生 自分のことは自分でしよう 言いたいことを言葉で伝えよう 2 年 生 自分の周りにも目を向けてみよう 3 年 生 学童クラブ全体に目を向けて全体の中で自分の役割を果たそう 4～6 年 生 一日を見通し目的をもって生活を組み立てて過ごそう		
月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・基本的生活習慣を身につけよう ・学童クラブのルールを覚えよう ・仲間意識を育てよう	新しい生活環境に慣れよう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の安全確認
5月		友だちをたくさんつくろう	☆日常の生活、活動を通じて仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう	☆室内での過ごし方の工夫
7月		体調管理に気を付けよう	☆衛生や健康管理に配慮
8月		充実した生活で元気に2学期を迎えよう	規則正しい生活を送ろう
9月	・仲間と過ごす楽しさを膨らませよう ・主体的遊びの充実	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムを整える ☆学校行事を考慮し無理のない活動を心がける
10月		新しいことにチャレンジしよう	☆自主的に考えて行動できるようにする ☆日没が早くなるに伴い帰宅時の安全指導をおこなう
11月		友達関係を深めよう	☆ルールを守り、仲間意識を深められるようにする
12月		身の周りをきれいにしよう	☆ロッカーや自分の持ち物の管理と整頓をうながす
1月	・進級に向けて準備をしよう	寒さに負けずに元気に遊ぼう	☆体調管理ができるよううながす
2月		生活の見直しをしよう	☆自己管理ができるようにする
3月		進級する自覚をもとう	☆それぞれの学年で進級の準備をする 1, 2年生は新1年生を迎える準備 3, 4年生以上は卒クラブ後の生活準備

令和2年度 永山学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 (地震・火災))	新入生へのプレゼント製作	保護者会24日(金)	入学式 担任との打合せ	1年生学校への迎え 降所指導
5月	誕生会	引き渡し訓練 避難訓練	工作週間	引き渡し訓練 新入所個人面談 (5~6月)		
6月	誕生会 歯科指導	避難訓練 (地震・火災))		親子交流会 13日(土)		
7月	誕生会 映画会	避難訓練 (不審者)) 子どもCAP		夏休み説明会 大人CAP 昼食会		
8月	昼食会(親子交流 会) 誕生会			昼食会 (親子交流会)		夏のボランティア受け入れ
9月	誕生会	総合防災訓練 防犯安全教室				
10月	おみせやさん 誕生会	避難訓練 (不審者)) お留守番講座		地区懇談会 個人面談		冬時間降所開始 予定 19日(月)
11月	気持ちの伝え方 講座 誕生会	避難訓練 (地震・火災))	工作週間 11月末~12月	個人面談	中学生職場体験	
12月	おたのしみ会 誕生会 大掃除・映画会	避難訓練 (火災)		3年生保護者 懇談会		遠足実踏
1月	こぐま保育園 交流会 誕生会	避難訓練 (火災)		新入所面談		冬時間降所終了 予定 8日(金)
2月	3年生遠足 (遠足予備日) 誕生会	避難訓練 (地震・火災))		進級お祝い会		
3月	誕生会	避難訓練 (地震・火災)) 交通安全教室		入所説明会 昼食会	卒業式	

ねらい

<行事>

仲間意識や思いやりの心を育む……………新入生歓迎会・こぐま保育園交流会等  
みんなで準備などに取り組むことにより自主性・協調性を育む……………お楽しみ会等  
社会性を身につけ、自分で判断し行動する力を養う……………卒クラブ遠足、お留守番講座等

<制作活動>

作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合う楽しさなどを体験させる。



## 2020年度 永山学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ担当者基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全員 2, 3年目の希望者	5月～ 6月
学童クラブ担当者中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦する職員	未定
学童クラブ 担当者会議	多摩市	(以下2019年度の内容・今年度未定) ・応急処置について ・人権について ・災害時対応 ・発達支援室について ・子どもの見立て ・子育て総合センターについて	正職員	6月～ 2月
課内研修(全2回)	多摩市	(今年度内容未定)	正職員	10月 2月
全国学童保育合同研究集会	全国学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	全職員	10月
保護者・関係者向け研修	島田療育センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研修	保健所	発達障害、精神障害、愛着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	全職員	年1回
法人学担(たま研)	四学童クラブ常勤職員	内容未定	正職員	未定
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の合同の研究集会	全職員	年1回
中堅層職員研修	多摩福祉会	法人内中堅層職員対象の研修 内容未定	各施設の中堅層職員	未定
救命救急講習	多摩市	応急手当、救命処置の講習	正職員	6月

## 貝取小学童クラブ 2020 年度事業計画

1. 定員            80 名
2. 育成年齢      6 歳～10 歳（小学 1 年生～4 年生）  
8 月一時入所は 6 年生まで  
特別支援学校、特別支援学級に通う 5, 6 年生は入所可
3. 育成時間      学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
4. 児童数（4 月 1 日現在）

	計
1 年生	34 名
2 年生	22 名
3 年生	11 名
4 年生	5 名
5 年生	1 名
6 年生	0 名
計	73 名

### ① 新入所児状況

1 年生 34 名    2 年生 1 名

\* 在籍児の弟妹：名

\* アレルギー児：4 名（花粉症、喘息含む）

\* 要配慮家庭：9 名

\* 要配慮児：個別加配 3 名、通常加配 2 名

\* モアサービス利用：名

\* 出身保育園、幼稚園

保育園	人数	幼稚園	人数
貝取	8	おだ学園	2
ピオニイ第二	8	諏訪	1
こぐま	2	武蔵野	1
かおり	4	せいとく	1
かしのき	1	錦秋	1
ゆりのき	1	緑ヶ丘	1
日野みさわ	1		1
こばと第一	1		

## ② 在籍児状況

- \* 要配慮家庭 : 8名
- \* 要配慮児 : 個別加配3名、通常加配3名
- \* モア利用者 : 名
- \* 待機児童 : 0名
- \* アレルギー児 : 0名

## 5. 職員体制

(1) 常勤職員 4名

(2) 有期契約職員 8名

〈おやつ担当〉 4時間×週5日 : 1名

〈要配慮児対応〉 4時間×週5日 : 1名、4時間×週4日 : 3名、4時間×週3日 : 2名

〈土曜日対応〉 7時間×週1日 : 1名

## 6. 2020年度 重点課題

### <育成目標>

- ・ 異年齢集団の良さを生かし、助け合い喜び合う心を育てる。
- ・ 自分の事は自分でできる子に育てる。
- ・ 命の大切さや心の痛みの分かる子に育てる。
- ・ いきいきと自分を表現できる子に育てる。

### <全体として>

- ・ 多摩市より新規委託を受けることとなった。市の職員から常勤職員が入れ替わったことによる子どもたち、保護者の不安を取り除くよう努力していく。市の臨時職員を有期契約職員として雇用し不安を緩和していきたい。
- ・ 一人一人の子どもと向き合い、一日も早く児童を理解し良好な関係を作っていく。
- ・ 当面は直営時代の基本的な生活の流れを変えないようにしながら法人独自の取り組みを少しずつ取り入れていく。
- ・ グループ育成を構築していくことを年間の目標とするが、直営では全体育成を行っていたためスタートは全体保育を行い、徐々にグループ育成の色を出していくよう、無理のない計画を立てていく。
- ・ 新築の建物となるのですべて一から整えていかなければならない。子どもたちが落ち着いて過ごせる空間ができるよう環境整備に力を入れていく。
- ・ 子どもたちの創造力を育てることを大事にし、工作や手芸の材料をそろえる。
- ・ 保護者との関係を構築していく。
- ・ 学校、保育園、幼稚園、その他関係機関と情報を共有し協力しながら子どもたちの育成に努めていく。
- ・ グループ制を導入するにあたって、職員間の打ち合わせ、子どもたちとの意見交換を行っていく。
- ・ 職員一人一人が学童クラブ全体の様子を常に気にかけて適切な職員配置ができる力を

つける。

#### <保護者との関係>

- ・一日も早く児童の状況を把握し、保護者の気持ちや悩みに寄り添っていける関係づくりをしていく。子どもたちの日々の様子は必ず毎日の打合せで伝え合う。
- ・お迎えに来た保護者にはその日にあった出来事を少しでも良いので伝えていき、保護者が職員に声をかけやすい雰囲気を作っていく。
- ・日頃お迎えに来られない保護者とは連絡帳や電話を活用し、子どもの状況を共有していく努力をする。
- ・小さなミスから信頼関係が崩れることもあるのですべてのことを慎重、丁寧に行っていく。
- ・毎月のお便りは行事や日々の子どもたちの様子を伝えるとともに、伝達ツールとしても活用していく。
- ・保護者会の折には仕事を終えて疲れて帰ってきた保護者をねぎらい、その日のおやつを少量でも提供し、親にとってもホッとできるような場を目指す。ビデオなどで子どもたちの日頃の様子を伝える。保護者会の資料を見やすい内容にして活用できるようにする。来てよかったと思えるような保護者会を目指す。
- ・保護者同士のコミュニケーションの場として積極的に場所を提供する。
- ・全国学童保育連絡協議会と連携を取り、学童保育を取り巻く情勢等について情報交換を行っていく。

#### <環境面>

- ・子どもたちの動きに合った導線を確保できるよう家具など備品購入は慎重に行う。
- ・3グループに分けるべく家具、机等の配置を行う。

#### <関係機関>

- ・学校との連絡を密にし、特に学校との約束事などは曖昧にしておかないようしていく。子どもたちの状況をこまめに伝えあい共有していく。
- ・各関係機関（発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等）との連絡を密にしていく。またその中で得た情報は守秘義務を守りながら職員間で共有していく。
- ・乳幼児ネットワーク会議、青少協、子育てミーティングなどに出席し地域とのつながりを作っていく。

#### <育成計画>

- ・計画は年間、三期、月単位で立てながら育成していき、月ごとに振り返りを行い、年度末に総括をする。
- ・防犯、防災の意識を高め、毎月避難訓練、防犯訓練、防災訓練等を行う。
- ・月に1回有期契約職員を含め全員での会議を行い1人1人の子どもたちについて情報を共有していく。

- ・直営の時の行事を取り入れながら、子どもたちが自主的に行事を考え、作り出す力をつけていく。企画自体も子どもたちが考えられるように取り組む。
- ・法人内、エリア内の学童クラブと交流を深め、子どもたちの居場所として地域を意識した連携をしていく。
- ・卒クラブ後の子どもたちを見据え、児童館とも連携していく。

#### <職場として>

- ・すべての職員にとって新しい環境でのスタートとなるので、それぞれがこれまでの経験を活かし、自分で考え行動していけるよう、お互いを尊重し、援助し合える関係を作っていく。
- ・グループ育成を目指し、話し合いの時間を多く持つ。常に子どもたちや保護者の状況を共有し合えるようにする。
- ・皆が初めてのことばかりとなるが、職員がリフレッシュできるような環境を作る。有給休暇を取りやすくするよう人員配置に配慮する。
- ・有期契約職員もやりがいを持って育成に当たり、常勤職員と共にグループ運営の担い手となれるよう意識を高く持てる職場にする。
- ・常勤職員、有期契約職員ともに自主的に研修に参加していけるようにする。
- ・運営上の仕事を分担し、協力し合う。
- ・職員の健康管理に気を付け、1年に1回の健康診断、毎月の細菌検査等を行う。
- ・就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

#### <職員研修計画> 別紙参照

## 2020年度（仮称）貝取小学童クラブ 年間計画

- ・自分の事は自分でできる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
- ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。 4.主体的に行動し、日々の生活の中で充足感を得る。
支援目標	<余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 (3)異年齢集団の特徴を生かし、社会性・協調性を育む  <生活支援> (1)食の大切さを知る (2)後片付けができる (3)手洗い・うがい・気候にあった着脱衣ができる  <安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯・防災指導 (4)交通安全指導
学年目標	1年生 自分のことは自分でしよう。言いたいことを言葉で伝えよう。 2年生 自分の周りにも目を向け行動しよう。下の学年の子の面倒を見よう。 3年生 小学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4～6年生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身につける  ・仲間意識を育てる	新しい生活環境に慣れよう 自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月		楽しい遊びを見つけよう	☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう 関わり合いを大事にしよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆室内での過ごし方の工夫
7月		自立心を高めよう	☆身辺自立を促す
8月	・自分で生活を組み立てて過ごすことを学ぶ	夏休みを規則正しく過ごそう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の充実 ☆継続的な遊び
9月		生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		仲間同士協力し合おう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		自然に親しむ	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月		物の管理、体調管理をしよう	
1月	・次年度に向けての意識作り	自分たちでできることをやってみよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		進級・卒クラブに向けて準備をしよう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		一年間を振り返り、成長を認め合おう	新1年生受け入れの心の準備 3・4年生……卒クラブ後の生活に向けての対応

2020年度（仮称）貝取小学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 交通安全教室	新入生へのプレゼント製作	保護者懇談会	入学式 担任との打合せ	降所指導
5月	歯科指導 誕生会	避難訓練 引き渡し訓練	春の工作	全員個人面談		
6月	誕生会	防犯教室		夏休み説明会		
7月	誕生会	交通安全教室		昼食会		
8月	誕生会		夏休み工作	夏まつり		
9月	誕生会	避難訓練 総合防災訓練			職場体験	
10月	おみせやさん 誕生会	防犯訓練		保護者懇談会		冬時間降所開始
11月	誕生会	避難訓練	工作週間 (のびのび豊ヶ丘祭り)	希望者個人面談 3年生保護者会		
12月	3年生遠足 誕生会	防犯教室				集団遊び
1月	お留守番講座 誕生会	避難訓練		冬まつり		
2月	誕生会	防犯教室				
3月	進級お祝い会 誕生会	避難訓練		入所説明会	卒業式 担任との情報交換	児童館見学

ねらい

<行事>

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……………新入生歓迎会・お別れ会等  
 みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……………お楽しみ会等  
 社会性を身につけ、自主的行動を实践する機会とする……………卒クラブ遠足、お留守番講座

<制作活動>

作る喜び、考えた事が形になる喜び、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

## 2020年度（仮称）貝取小学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
新人研修(2回目)	多摩福祉会	新入職員研修	新入職員	6月
学童クラブ 担当者 基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全員と 2, 3年目の希望者	5月～ 9月
学童クラブ 担当者 中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦す る職員	未定
学童クラブ 担当者 会議(全6回)	多摩市	・応急処置について ・人権について ・防災について ・子どもの見立て ・子育て総合センターについ て ・発達支援室について	常勤職員	6月～ 2月
アレルギー研修	東京都	アレルギー児の対応につい て	常勤職員	6月以降
課内研修(全2回)	多摩市	未定	常勤職員	10月
全国学童保育合同 研究集会	全国学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合研	全職員	10月
保護者・関係者向け 研修	島田療育 センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研 修	保健所	発達障害、精神障害、愛 着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合 センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合研	全職員	年1回
たま研(法人内研修)	三学童クラブ 常勤職員	事例、法令等の学習	常勤職員	学期に 1回
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の 合同の研究集会	全職員	年1回
新人研修	多摩福祉会	新入職員に対し、在職職 員の体験発表など	新入職員	2月